

鳥の生息情報を集めています！！

生息環境や繁殖地の開発・改変により繁殖や個体数が減少している鳥の生息情報を求めています。



アオバズク (A)

小型のフクロウの仲間。夏鳥として飛来し、夕方から林内で「ホッホー、ホッホー」と二声ずつ鳴く。餌となる大型昆虫と、営巣に適した樹洞の減少で個体数が減少している。



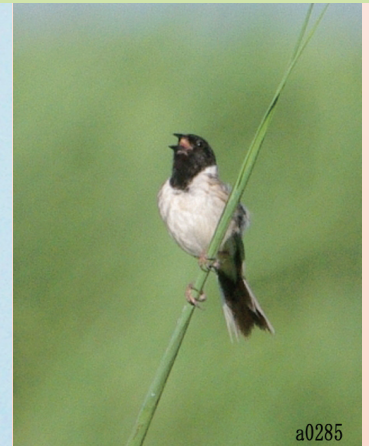
サシバ (A)

タカの仲間。夏鳥として飛来する里山のアンブレラ種。「ピクイー」と鳴く。カエル、ヘビ、トカゲ等を食べる。谷津田の環境全体を保全する事が大切である。



ホトトギス (C)

カッコウの仲間。5月頃に飛来する夏鳥。初夏に「テッペンカケタカ」と鳴く。毛虫類を好んで捕食し、ウグイスに託卵する。



コジュリン (A)

ホオジロの仲間。世界でも極東地域にのみ生息する。利根川河川敷や印旛沼の繁殖地は全国的に有名。「ピッチリリー、ピチヨ」と鳴く。繁殖地の広いヨシ原の保全が大切である。



セッカ (D)

ウグイスの仲間。河原の草原や水田に生息する。波状に飛翔しながら「ヒッヒッヒッ・・・チャッチャ・・・」と鳴く。



オオセッカ (A)

ウグイスの仲間。世界でも極東地域にのみ生息する。利根川河川敷の繁殖地は世界的に有名。「ジビジビジ・・・」と鳴きながら山形に飛翔する。繁殖地の広いヨシ原の保全が大切である。



オオヨシキリ (D)

ウグイスの仲間。夏の暑い日に一日中「ギョギョシ、ケケケケ」など大きな声で鳴く。ヨシ原への依存性が強く、他の環境では見られない。そのため、ヨシ原の保全が重要である。



コアジサシ (A)

カモメの仲間。埋め立て地や砂浜でコロニーを形成するが東京湾岸では激減している。駐車場などでの繁殖を試みる事もあるがほとんどが失敗している。砂浜などの維持管理が大切である。

種名の次のカッコ内の（英文字）は、「千葉県レッドデータブック」の категорияです

X: 消息不明・絶滅生物 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物 D: 一般保護生物

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、調査団のホームページをご覧ください

「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

千葉県保護上重要な野生生物レッドデータブック動物編

2011年版が発行されました!!

県では、絶滅のおそれのある野生動植物に関する情報を記載した千葉県レッドデータブックやレッドリストを発行してきました。

動物については、2000年3月に千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック動物編が刊行され、2006年3月にリスト掲載種が見直され、千葉県レッドリスト2006年改訂版としてまとめられました。今回、その後の生息数の増減や分布域の状況の変化等の調査結果を踏まえて、各分野の専門家で構成される作成検討委員会により、調査や資料収集、多くの協力を得てレッドデータブックが改訂されました。掲載されている脊椎動物は、哺乳類17種、鳥類161種、爬虫類12種、両生類11種、汽水・淡水産魚類28種の計229種、無脊椎動物では、昆虫類396種、クモ類10種、陸産甲殻類5種、十脚甲殻類30種、多足類36種、貝類196種の計673種で、脊椎動物と無脊椎動物を合わせて902種です。前回（平成18年873種）と比べると29種増加しました。県レッドデータブックを通じて、県内の自然環境、生物多様性の現状を知り、多くの方に関心をもっていただきたいと思います。

千葉県文書館（☎043-223-2658）で1,530円で販売しています。県内の図書館で閲覧できます。当センターのウェブサイト（<http://www.bdcchiba.jp/index.html>）でPDF版が、公開されています。査団員の写真も掲載協力しています。

調査団の報告をまとめました！（センター研究報告第3号：2011年3月）

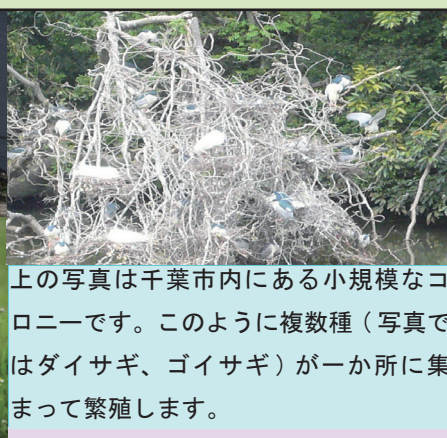
「生命（いのち）のにぎわい調査団」事業は、県民参加型の生物モニタリングとして2008年7月に発足して、2011年1月までの2年半の間に、団員から8,147件の報告がありました。調査対象の57種類の生物に加えて、対象以外の生物も多くの報告があり、報告には発見した生物の種名、日時、位置情報及び写真も添付されています。

研究報告では、調査対象種の分布図、生物季節の比較、調査対象以外の希少種の情報などを取りまとめ、現時点でのモニタリング状況の取りまとめと課題の抽出などを行いました。当センターのウェブサイトでご覧いただけます。（柴田、P77～）

サギ類のコロニー（集団繁殖地：サギ山）の情報を求めています!!

身近な池や田で観察できるサギ類は、集団で繁殖する生態があり、コロニーを人の生活空間に近い水辺の林に作るため、鳴き声やフンの匂いが問題となり、追い払われることがありました。近年は、大きなコロニーはなくなり、分散しています。

サギと人との共生を図るには、どこに立地にコロニーが形成されているかを知ることが大切です。



上の写真は千葉市内にある小規模なコロニーです。このように複数種（写真ではダイサギ、ゴイサギ）が一か所に集まって繁殖します。

<これからの生物季節の報告>

ホトギス（初鳴き）、アマサギ、ヤマトタマシ、ナガサキアゲハ、ヤマユリ、キンラン

<特定外来生物>ウシガエル、オオキンケイギク、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ

<調査団員を募集しています>

団員は612名（平成23年4月末現在）になりましたが、生物報告の分布の偏りをなくすためにも、さらに、調査団員を募集しています。

あなたの調査報告は、千葉県内の自然を守る基礎資料となり、生息分布等の保全に役立っています。

入団申込書は、調査団 HP <http://www.bdcchiba.jp/index.html> からダウンロードできます。

